

中間報告案について

令和8年3月17日（火）

研究振興局研究振興戦略官付

感染症部会の目的

近年、様々な地域で新たな感染症が出現し、熱帯地域を中心として様々な新興・再興感染症が流行してきた。文部科学省では、これまでこうした感染症への対策の根幹を支える研究を推進してきた。令和8年度末には、現在行っている新興・再興感染症基盤創生事業の事業期間を迎えることもあり、文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会ライフサイエンス委員会の下、我が国における今後の感染症分野の研究開発・人材育成等の推進に係る方策を検討するため本作業部会を開催する。

作業部会の進め方

スケジュール

- | | |
|------------|---------------------------------------------------|
| 第1回（1月28日） | ・作業部会の主旨・進め方について
・有識者ヒアリング（これまでの海外研究拠点の取組及び成果） |
| 第2回（2月17日） | ・有識者ヒアリング（感染症研究人材育成について・モニタリング体制の強化に関する取組） |
| 第3回（3月13日） | ・有識者ヒアリング（BSL-4施設を活用した研究の取組・コロナ禍の取組・他事業連携） |
| 第4回（3月17日） | ・有識者ヒアリング（病原体共有の取組について）
・論点中間報告 |
| 第5回（4月7日） | ・今後の感染症研究に向けた提言案 |

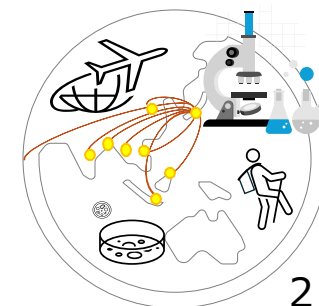
委員一覧

- | | |
|--------|------------------------------------------------|
| 大曲 貴夫 | 国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター 副院長 |
| 川上 英良 | 千葉大学 国際高等研究基幹 教授 |
| 小柳 義夫 | 京都大学国際高等教育院 特定教授 |
| 鹿野 真弓 | 東京理科大学薬学部 嘱託教授 |
| 鈴木 基 | 国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所感染症疫学センター長 |
| 舘田 一博 | 東邦大学 医学部 教授 |
| 多屋 馨子 | 神奈川県衛生研究所 所長 |
| 山野 佳則 | 日本製薬工業協会 国際委員会・グローバルヘルス部会・感染症グループ・創薬促進検討SGリーダー |
| 渡辺 登喜子 | 大阪大学 微生物病研究所ウイルス分野 教授 |

ヒアリング事項案

- ・ 新興・再興感染症研究基盤創生事業の取組と成果について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第1回）
- ・ 感染症基礎研究人材の育成について【舘田一博（東邦大学 医学部 教授、感染症学会 理事）】（第2回）
- ・ モニタリング体制の強化に関する取組について【齋藤智也（JIHS 感染症危機管理研究センター センター長）】（第2回）
- ・ BSL-4施設を活用した研究の取組について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第3回）
- ・ 新興・再興感染症研究基盤創生事業のコロナ禍の取組について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第3回）
- ・ 他事業連携の促進について【小柳義夫（京都大学国際高等教育院 特定教授、AMED 感染症プロジェクトPD）】（第3回）
- ・ 病原体共有に関する取組について【鈴木忠樹（JIHS 国立感染症研究所 感染病理部長）】（第4回）

（敬称略・五十音順）





海外研究拠点現地で育成した日本人材の、学位取得(博士、修士)者数

人材育成についての追加情報

➤ 海外研究拠点現地で育成した人材について、日本人材で、学位取得(博士、修士)の人数

	北海道大学 ザンビア 拠点 (2007~)	東北大学 フィリピン 拠点 (2008~)	新潟大学 ミャンマー 拠点 (2015~)	東京大学 中国 拠点 (2005~)	東京科学 大学ガーナ 拠点 (2008~)	大阪大学 タイ 拠点 (2005~)	大阪公立 大学コンゴ 民拠点 (2020~)	神戸大学 インドネシ ア拠点 (2007~)	岡山大学 インド 拠点 (2007~)	長崎大学 ベトナム 拠点 (2005~)	長崎大学 ブラジル 拠点 (2023~)
学位(博士)	31名	24名	4名	1名	1名	10名	4名	2名	7名	21名	0名
学位(修士)	0名	13名	1名	0名	0名	6名	0名	9名	6名	5名	0名
合計	31名	37名	5名	1名	1名	16名	4名	11名	13名	26名	0名

感染症研究の推進に関するこれまでの取組及びその課題（案）



これまでの感染症研究の取組及びその成果

- 感染症の流行しやすい11か国に海外研究拠点及び海外研究拠点間のネットワーク強化等を目的としたNWコア拠点と合わせて12拠点の研究拠点を整備することで、感染症流行地以外では実施が困難な質の高い多様な研究を推進するとともに、グローバルな感染症情報の収集等による感染症モニタリング体制を構築。
- 我が国の感染症研究人材のすそ野を広げる観点からも拠点外の実験室にも門戸を開きつつ、感染症領域に閉じない異分野融合研究を行うことで、新興・再興感染症に対する先端的な研究を実施。
- 感染症流行国における実地疫学の経験を通じた、グローバルな視点と実務能力を兼ね備えた疫学人材を育成。また、事業で育った研究者が新型コロナウイルス感染症パンデミックにおける厚生労働省クラスター対策班等での活動を通じた我が国の感染症有事対応にも貢献。
- AMED-CRESTとの連携を図るため要件に盛り込むことで連携が加速した。さらなる発展が期待される成果2件に対してAMED調整費も追加され成果創出が加速した。また、感染症に関するAMED内の会議体にマッチングの強化を目的に追加して議論を開始している。
- 長崎大学が特定一種病原体等所持者として、また、長崎大学BSL4施設が特定一種病原体等所持施設として指定され、引き続き長崎大学等においてBSL-4施設を活用した基礎研究を推進するとともに、一種病原体を所持している国立感染症研究所と連携を強化することで、BSL-4施設の活用に向けた体制整備・人材育成を推進。
- (外部資金獲得)・・・<今後議論予定>・・・

感染症研究の必要性とその課題

- 新興・再興感染症分野におけるアカデミア主導の基盤・基礎研究を行うことは重要。今後の海外研究拠点の支援の在り方について検討が必要
- 1つの拠点での研究にとどまらず、近隣地域における拠点間コンソーシアムの構築など、各拠点の特色を生かした連携の推進による更なる研究が必要
- 基礎・臨床・疫学の連携強化及びAI・データサイエンス等の新規分野研究者の参画促進により感染症研究のすそ野を広げる必要
- 今後の感染症研究を担う大学院生・若手研究者による海外拠点の活用促進等による人材育成への重点的投資が必要
- 研究・疫学・医療人材育成を包括的に進めるための、専門担当者を常駐させた強化海外研究拠点の設定の検討が必要
- パンデミック協定等の国際約束の適切な履行を行いつつ、我が国の感染症モニタリング体制を構築する必要。そのためには、平時の感染症モニタリング体制の高度化及び有事に備えた体制整備が必要。また、すでにある海外におけるネットワークを活用した連携が必要
- エボラウイルス等の病原性の高い病原体による重篤な感染症への対策は国際的に大きな課題。我が国においても、引き続き地域住民との相互理解を深めながら、BSL-4施設を活用した研究を推進していく必要

様々な新興・再興感染症に対応するためにも、継続的な基礎研究の充実・人材育成の強化、感染症情報の早期検知・研究開発動向の把握を目的とした国際ネットワークの構築など有機的な国際的な連携の強化を行っていく必要がある。

今後の感染症研究の在り方

海外研究拠点における国内では実施が困難な感染症研究を通じたこれまでの成果を踏まえ、引き続き新興・再興感染症に関する基礎研究を継続するとともに、成果の社会実装を見据えた応用研究や臨床開発への展開を図っていく必要がある。さらに、感染症有事に備え感染症モニタリング体制の深化を進めるとともに、拠点間の連携を強化するなど、グローバルな共同研究の推進を強化していく必要がある。

あわせて、これらの取組のためにも、今後の感染症研究を担う人材の育成を目指し、海外拠点を活用した教育・研究の機会を充実させるなど支援の在り方についても検討を進め、取組を推進する必要がある。

感染症法に基づく一種病原体に関する研究は、完成したBSL4施設の活用、それらを取り扱う高度な研究を担う人材育成を進めることが我が国の健康医療安全保障を確保する上でも必要である。

今後推進するべき取組・検討事項

海外の感染症研究拠点における研究

- 我が国では研究が困難な病原体の研究を行うことのできる海外研究拠点の維持・強化
- 基礎研究から応用研究や臨床開発への発展
- 基礎・臨床・疫学分野の連携した研究課題の推進
- 拠点間の連携による共同研究の促進
- 継続的な取り組みのための大学ガバナンスの強化の要件化
- ▶ 諸外国の海外拠点の例を参考に、我が国としての強化方向性の検討
- ▶ 外部資金の獲得に関する取組の検討

等

感染症研究人材の育成

- 若手研究者向けの拠点活用・多分野融合研究の拡大
- AI・データサイエンスなど、これまで感染症分野への参入が少なかった領域の研究者の参画促進
- 臨床人材を基礎研究に参画を促進させるための取組の導入

等

モニタリング体制の構築

- 平時からのシミュレーションも含めた体制構築、感染症有事での実働できる感染症モニタリング体制の構築
- 海外インナーサークルへの参入のためのネットワーク構築
- ▶ パンデミック協定を念頭に置きつつ、我が国の国益に資するために拠点の蓄積した情報・検体の管理等

等

BSL-4施設を活用した一種病原体研究

- 国内の感染症に係る基礎研究能力の向上及び危険性の高い病原体等の取扱いに精通した人材の育成をするための準備研究を含む基盤研究

等

※青字は、今後更に検討を要すべき事項

幅広く存在する病原体に対して、感染症研究人材を育成し、我が国の健康医療安全保障を強化する。